

青山 道夫教授 還暦祝賀論文集

<https://doi.org/10.15017/10741>

出版情報：法政研究. 29 (1/3), pp.1-10, 1963-03-28. 九州大学法政学会
バージョン：
権利関係：

青山教授還曆祝賀論文集

還曆を祝して

謹んで本書を

青山道夫先生に

奉呈する。

昭和三十八年三月

執筆者一同



九州大学教授 青山道夫博士

青山教授は、明治三五年四月八日宮城県石巻市に生れ、宮城県立仙台第一中学校から第二高等学校をへて、昭和二年に東京帝国大学法学部法律学科を卒業された。同大学大学院にて親族法、相続法を専攻後、昭和一四年に大倉高等商業学校教授に就任されて民法を講じ、あわせて、法政大学、中央大学、専修大学、青山学院、明治学院などで講師を勤められた。昭和一九年四月、九州帝国大学教授に就任され、爾来、二十年近きにわたって、民法講座を担当され、さらに、戦後、新制大学院設置にともない同大学私法専攻過程の指導にもあたられている。その間、民法、とくに、家族法に関する多くのすぐれた業績を発表されたが、なかでも、広く法社会学的、民族法学的視野から旧来の家族制度にメスを入れられ、家族制度の民主化のために尽された功績は大きい。また、昭和二六年には、法学部長に、同三二年には附属図書館長にそれぞれ就任され、大学行政に尽力された。そのかたわら、昭和三五年以来日本学術会議会員として、また、日本法社会学会、民法主義科学者協会法律部会、国際法律家連絡協会などの理事として、今日にいたるまで学界の発展のために多大の貢献をされている。さらに、昭和二八年以降、英国、フランス、イタリア、オーストリア、チェッコスロバキア、中国、アフリカなどに出張され、学術交流と学問の発展に尽された。以上のほかにも、日本ユネスコ国内委員、福岡ユネスコ協会副会長、福岡勤労者音楽協会委員長、人権擁護委員、家事調停委員などを勤められて、文化的社会的には幅広い活動をしておられる。

教授の学界に寄与された功績はきわめて大きいが、なお寸暇を惜んで研究にいそしんでおられる。しかも、教授のある著書の副題にも示されているように、*「平和とヒューマニティを求めて」*常に若々しい情熱をもって活躍されているのである。

青山道夫教授の著書および主要論文目録

著書

親族法・相続法（大衆法律講座、共著）	昭九年	改	造	社
親族法大要	昭一二年	時	潮	社
相続法大要	昭一五年	同		
家族	昭一七年	白	揚	社
判例身分法研究	昭一八年	日	本	評論社
民主主義と家族制度	昭二一年	惇	信	堂
日本家族制度の研究	昭二二年	巖	松	堂
転換期の家族制度	昭二三年	春	光	堂
新しい民法	昭二三年	惇	信	堂
民法入門	昭二四年	日	本	学燈社
家族史の諸問題	昭二四年	竜	吟	社
身分法概論	昭二六年	法	律	文化社
近代家族法の研究	昭二七年	有	斐	閣
婦人の解放―婦人の基本的人権―（共著）	昭二七年	法	律	文化社
養子―近代家族法の基礎理論―（法律学体系第二部法理論篇八一C）	昭二七年	日	本	評論社

家族・人間・社会―平和とヒューマニティを求めて―	昭三〇年	法律文化社
家族法入門―市民のための家族法―	昭三〇年	同
民族法学序説	昭三〇年	酒井書店
民法大意(上)	昭二〇年	青林書院
相続法	昭三一年	評論社
みんなの法律	昭三二年	法律文化社
家族法論	昭三三年	同
続近代家族法の研究	昭三三年	有斐閣
暮しのなかの法律(みんなの法律1)	昭三五年	法律文化社
家庭の法律相談室(みんなの法律2)	昭三五年	同

訳書

ウェスターマーク・婚姻と離婚(改造文庫)	昭八年	改造社
ヴィノグラドフ・慣習と権利(岩波文庫)	昭九年	岩波書店
ロウイ ブリフォルト・国家及家族感情の起源	昭一〇年	時潮社
マリノウスキー・未開社会に於ける犯罪と慣習(改造文庫)	昭一一年	改造社
シュミット・国家・議会・法律(共訳)	昭一四年	白揚社
マリノウスキー・未開社会における犯罪と慣習(改訳)	昭三〇年	日本評論新社
モルガン・古代社会(上)(岩波文庫)	昭三三年	岩波書店

マリノウスキ―未開家族の論理と心理（共訳）
モルガン・古代社会（下）（岩波文庫）

昭三五年 法律文化社
昭三六年 岩波書店

主要論文

キリスト教の婚姻非解消主義に関する一考察

昭六年 法学新報四一卷五・六号

「父」の原始概念―マリノウスキ―家族学説の一考察―

昭九年 法学志林三六卷三号

古代社会における長子相続

昭一〇年 大倉学会誌改卷五号

原始法の特性

昭一〇年 法律時報七卷一〇号

人種学的法学―その理論と実践―

昭一一年 法律時報八卷一―号

養子法の近代的性格（一―二）

昭二―三年 法学新報四六卷一―号、四七卷一―号

婚姻同意

昭二二年 「家族制度全集」二部一卷に所収

民法改正と淳風美俗

昭二二年 政経志林一九三七年号

法典争議に関する資料（一―二）

昭三―四年 大倉学会誌改卷九・一二号

婚姻法改正の展望

昭一三年 政経志林一九三九年四号

判例に現はれた身分権の濫用（一―二）

昭一三年 法学新報四八卷六・七号

私生子認知

昭一三年 「家族制度全集」二部三卷に所収

長子相続

昭一三年 「家族制度全集」一部五卷に所収

離婚と子の監護

昭一三年 「家族制度全集」二部二卷に所収

我国に於ける養子制度否認論

昭一三年 法学志林四〇卷一―号

- 社会構成の基礎としての親子関係
 未開社会に於ける法と秩序
 判例に現はれた法定の推定家督相続人の地位
 シュミットホフの比較法学論
 モルガンを中心とする家族の原史について
 判例に現はれたる身分行為能力(一―二)
 イタリヤ新民法―人事編相続編について―
 アメリカ私生子法の概観(一―四)
 民法改正について
 ヘプライの家族制度―旧約全書を中心として―
 人種学的法学の現代に於ける意義
 法と人類学(一―三)
 現代に於ける人種学的法学の理論と実践
 トロブリアンドの慣習法―特にウリグブを中心として―
 エレマ社会における権力階級
 外国法学者の日本家族制度論
 岡田謙「未開社会に於ける家族」(書評)
 未開社会に於ける婚姻
- 昭一四年 法学新報四九卷八・九・一一号
 昭一四年 政経志林五号
 昭一五年 大倉学会誌改卷一三号
 昭一五年 法学新報五〇卷六・七号
 昭一六年 大倉学会誌改卷一五号
 昭一六年 法学新報五卷一二号、五一卷一・二号
 昭一六年 法学新報五一卷一二号
 昭一六年 法学新報五一卷一・六・七・一〇号
 昭一七年 大倉学会誌改卷一六号
 昭一七年 政経志林七号
 昭一七年 法学新報五三卷八号
 昭一八年 法学新報五三卷四・五・七号
 昭一八年 政経志林八号
 昭一八年 法律時報一五卷二号
 昭一八年 「ニューギニアの自然と民族」に所収
 昭一九年 法学新報五四卷三号
 昭一九年 社会学研究一輯
 昭二一年 法政研究一四卷三一四号

民法改正案と離婚	昭二二年	法律文化一卷七―八号
逆縁婚	昭二二年	科学主義昭二二年四月号
家族制度の封建性	昭二二年	女性改造昭二二年九―一〇月号
民主主義と我が家族制度	昭二二年	自由文化叢書
「家」を超えるもの	昭二二年	文化連合昭二二年一〇月号
民法改正要綱と離婚	昭二二年	法律文化一卷七―八号
法典争議の一資料―伊東家蔵書「民法異議」について―	昭二二年	法政研究一五卷一―二号
家族制度民主化のために―民法改正要綱を中心とする―批判―	昭二二年	季刊大学二号
農村民主化と相続制度―農業資産特例法案を中心として―	昭二二年	農業評論一卷二号
新相続法の基本理念	昭二二年	法律新報七四〇号
国民主権	昭二二年	自由人二〇号
家の廃止について	昭二三年	法律文化三卷三―四号
家族主義は清算されたか―改正民法への一批判―	昭二三年	評論二四号
改正民法と親子関係	昭二三年	法律タイムズ二卷四号
改正民法と私生子の問題	昭二三年	社会圏一二卷二号
改正民法と子の監護	昭二四年	法政研究一七卷一―四号
マルキシズムと家族法	昭二四年	法律文化四卷一―一二号
家族制度の転換	昭二四年	法律文化四卷三―四号

- 民法第七三〇条と第八九七条について―家族法の盲点―
 新しい家族倫理のために
 一夫一婦制家族の社会的基礎
 「民法七二七―七三八条」、「同七九〇―七九一条」、
 「離婚制度の史的概観」の註釈
 天皇破れて尊属あり―尊属殺と家族主義―
 養子制度研究序説
 家族（総論・ドイツ・フランス・アメリカ）
 家父長制
 養子制度の新動向
 ソヴェエトにおける事実婚問題
- 家族と法律
- 婚姻（総論・西ヨーロッパ・ロシア・スラヴ）・
 相続（総論・西洋）
 「民法八四三―八四七条」の註釈
 改正民法と近代家族の形成
 近代社会と日本家族制度
- 昭二五年 法律時報二三卷一号
 昭二五年 女性改造昭二五年三月号
 昭二五年 私法二号
 昭二五年 中川編「註釈親族法」上に所収
 昭二五年 女性改造昭二五年一二号
 昭二五年 松山商大論集一卷一号
 昭二六年 「世界歴史辞典」四巻の同項に所収
 昭二六年 「世界歴史辞典」四巻の同項に所収
 昭二六年 法律のひろば四巻九号
 昭二七年 穂積先生追悼記念論文集「家族法の諸問題」に所収
 昭二七年 中央公論六七巻五号
 昭二七年 「世界歴史辞典」七巻の同項に所収
 昭二七年 中川編「註釈親族法」下に所収
 昭二八年 法学新報五九巻七号
 昭二八年 季刊法律学一三号

民法第七百三十条についての一考察	昭二八年	私法一〇号
民族法律学について―素描的一試論―	昭二八年	法政研究二〇卷二一四号
イギリスにおける離婚法改正の動向	昭二九年	法政研究二二卷一号
「家」の問題	昭二九年	改造三五卷一二号
「民法八八六―八九〇条」の註釈	昭二九年	中川編「註釈相続法」上に所収
家族の歴史	昭三〇年	中川編「家族」らいぶらりしりいず に所収
あいくせとクウヴァード	昭三〇年	ケース研究三五号
民法第七二八条についての一考察	昭三〇年	民商法雑誌三一巻五号
家族	昭三〇年	「世界百科大辞典」五巻の同項に所 収
「民法九六七―九六九条」の註釈	昭三〇年	中川編「註釈相続法」下に所収
民法典論争(一一二)	昭三一年	法学セミナー九・一〇号
親権者の引渡請求と子の自由意思(総合判例研究)	昭三一年	判例時報七六号別刷判例評論五号
性倫理と法	昭三一年	思想三八八号
確定日附なき財産留保、全財産留保隠居(判批)	昭三一年	民商法雑誌三二巻第五号
身分行為と民法第九十条―判例を中心として―	昭三二年	法政研究二二卷二一四号
家族学説の諸問題	昭三二年	中川他編「家族」(△家族問題と家

レヴィ・ストロースの家族学説について

法と民族

親子の「課題」

自由民権論者の家族観

家族制度復活の問題

現行養子法の一批判

川島武宜「イデオロギーとしての家族制度」(書評)

身分法における権利濫用

協議離婚無効確認調停事件の事後調査(共筆)

扶け合いの義務(基本法セミナー)

離婚の史的諸形態とその背景

妾

妾契約と売春―最高裁判決を中心として―

旧社会と家族制度論争

族法ⅤⅠ)に所収

昭三三年 「家族問題と家族法」月報四号

昭三三年 法律時報別冊四号

昭三三年 中川他編「親子」(△家族問題と家

族法ⅤⅣ)に所収

昭三三年 法政研究一五卷二十四号

昭三三年 九大法学部創立三十周年記念論文集

「法と政治の研究」に所収

昭三三年 法律のひろば一〇卷一〇号

思想四〇二号

昭三三年 法律時報三〇卷一〇号

法政研究二五卷一号

昭三三年 法学セミナー二八号

中川他編「離婚」(△家族問題と家

族法ⅤⅢ)に所収

昭三三年 「世界大百科辞典」二八卷同項に所収

判例時報二五号別刷判例評論一一号

昭三四年 小池隆一博士還暦記念論文集「比較

代諾縁組（基本法演習）	昭三四年	法と私法の諸問題」に所収
法律婚主義の行方	昭三四年	法学セミナー四二号
財産分与請求権の相続	昭三四年	全国大学教授連合会報一三号
		民商法雑誌三九卷四一六号、創立
		二五周年記念特集号「私法学論集」
		下に所収
「慰藉料と財産分与」の解説	昭三四年	谷口Ⅱ加藤編「民法演習」Vに所収
法律婚主義と事実婚主義	昭三四年	中川善之助教授還暦記念「家族法大
		系」II婚姻に所収
親族法改正の方向「協議離婚について」	昭三四年	法律時報三一卷九号
内縁の妻と外縁の妻（法令随想）	昭三四年	時の法令二三三号
中国における家族の問題―人民公社を中心にして―	昭三四年	法律のひろば一三卷一号
新しい家族	昭三五年	訪中法律家代表団報告書「中国の法
		と社会」に所収
「財産分与」の問題と解説	昭三五年	谷口Ⅱ加藤編「民法例題解説」IIIに
		所収
中川善之助「親族法」（紹介批評）	昭三五年	法学二四卷四号
家族	昭三五年	「民事法学辞典」上の同項に所収

財産分与（判批）

昭三五年 シュリスト「判例百選」

法律婚主義と事実婚主義

昭三六年 法学教室二号

我妻栄「親族法」（紹介）

昭三六年 法律時報三三卷一号

明治民法以後の相続法

昭三六年 中川他編「相続」（《家族問題と家族法》Ⅵ）に所収

ポーランド家族法の素描（共筆）

昭三六年 法政研究二七卷二―四号

ポーランド家族法典（一九五〇年六月二七日法）（共訳）

昭三六年 家裁月報一三卷六号

唯物史観と家族理論―玉城教授の批判に答えて―

昭三六年 法政研究二八卷一号

家族法の基礎理論

昭三七年 新法学講座「現代法の基本原理」に所収

長男の地位の推移と兄弟関係の変遷

昭三七年 教育と医学昭三七年五月号

わが国における権利濫用理論の発展

昭三七年 末川先生古稀記念論文集「権利の濫用」上に所収